

## 編集後記

私は現在スウェーデン、ヨーテボリのチャルマーシュ工科大学の研究室にお世話になっています。元々は原子炉物理が専門の研究室ですが、最近は原子力材料の研究も始めており、陽電子ビーム装置という京都大学原子炉実験所にはない装置を利用して研究を行っています。

世界中がITERの建設により盛り上がり、スウェーデンの核融合研究もその流れに乗っているように感じます。しかし、原子力発電の方に目を向けてみますと、インターネットで調べてもわかるように、スウェーデンは反原子力の政策をとっています。スウェーデンは1979年にアメリカのスリーマイル島で発生した事故後、原子力の利用に危険を感じ、反原子力発電の方針を決め、国民投票を行いました。当初は2010年までに国内すべての原子炉の停止を決定しましたが、スウェーデンは全電力の半分を原子力が占めており(残り半分はほぼ水力)、代替のエネルギーが見つからないという理由で、2010年という期限は撤廃されました。しかし、現在までに数基の原子炉が停止され、

現在使用されている原子炉は寿命を迎えると停止されることになっています。また、新しい原子炉の建設計画もありません。

このような状況から、スウェーデンの原子力事情をとってもネガティブに感じ、研究者たちがどのような思いで研究をしているのか気になりました。そこで、スウェーデンでの同僚にこの件について質問してみたところ、「国民の多くは原子力の使用に賛成であるが、過去、国民投票まで行って決定した政策なので急に転換した場合、政党への支持が落ち、政権を失うのではないかと政治家たちが恐れて、方向転換できずにいる」と話してくれました。彼らは新しい原子炉が建設されるという希望を捨てておらず、それが研究への意欲となっているようです。民意が国政に反映されないことを残念に思うのと同時に、国が原子力を容認するようになれば、スウェーデンの原子力関係の研究がますます活発に行われ、発展するのではないかと思います。

(佐藤紘一)

### プラズマ・核融合学会役員

会 長	松田慎三郎	副 会 長	三間 園興	本島 修	常務理事	中村 幸男 (総務委員長)
理 事	秋山 秀典 (企画委員長)		板垣 正文		伊藤 早苗	
	今井 剛 (広告委員長)		奥野 健二		加藤 敬 (財務委員長)	
	近藤 光昇		笹尾真実子		佐野 史道 (出版委員長)	
	寺井 隆幸 (編集委員長)		畑山 明聖 (広報委員長)		浜口 智志 (プログラム委員長)	
	林 康明		森 雅博			
監 事	飯尾 俊二		松尾 慶一			

### プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター 寺井隆幸 (東大)

エディター 岡子秀樹(九大), 田中雅慶(九大), 福山 淳(京大), 村上匡且(阪大), 室賀健夫(核融合研), 行村 建(同志社大)

編集委員 石島達夫(名大プラズマナノ), 伊藤清一(広島大), 打田正樹(京大エネ科), 江原真司(九大総合理工), 大谷寛明(核融合研), 大矢恭久(静大理), 菊池祐介(兵庫県立大), 栗本祐司(シャープ), 後藤基志(核融合研), 齋藤和史(宇都宮大), 酒井 道(京大院工), 榎原 悟(核融合研), 坂本隆一(核融合研), 佐藤 聡(原子力機構), 佐藤杉弥(日本工業大工), 田中照也(核融合研), 田中康規(金沢大), 長友英夫(阪大レーザー研), 浪平隆男(熊大院自然), 畠山賢彦(東北大金研), 花田和明(九大応力研), 濱口真司(核融合研), 林 伸彦(原子力機構), 平田孝道(武蔵工大工), 森 道昭(原子力機構関西), 吉川正志(筑波大院数理), 吉田弘樹(岐阜大工)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

### プラズマ・核融合学会誌第84巻第11号

編集・発行

〒464-0075 名古屋千種区内山3丁目1-1 4階

社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jsof.or.jp URL: http://www.jsof.or.jp/ 定価1,365円(本体1,300円)

印刷 株式会社荒川印刷

2008年(平成20年)11月25日

本誌に掲載された寄稿等の著作権は(社)プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月第1火曜日に開かれています。但し、都合により変更になる場合があります。